



緑の地球新聞

第170号

2025年10月5日発行：公益財団法人 緑の地球防衛基金

いま名もない砂漠がふえている
私たちは次の世代へ緑の地球を贈ろう

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館203
☎ 03 (3297) 5505 Fax 03 (3297) 5507
URL: <https://green-earth-japan.net/>
e-mail: defense@green.email.ne.jp
郵便振替口座 00110-9-161182 定価 ¥150



シマフクロウの雄姿。
翼を広げると1.8mに達する

「ボーボー、ウー」
森の静寂を突き破るように、北海道東部の森に野太い声が響き渡る。「ボーボー」というオスの呼びかけに、メスが間髪を入れずに「ウー」と応える。お互いの存在を確認し合うシマフクロウの鳴き交わしだ。翼を広げると1・8メートルに達する大型の肉食性フクロウである。河川や湖沼周辺の森林に生息し、広葉樹のうろ（樹洞）に営巣。両生類、ほ乳類、鳥類を捕食する。北海道の広い範囲に分布していたが、現在は東部の日高山脈、知床半島、根釧台地に合わせて約200羽程度が生息している。1972年、シマフクロ

特別寄稿

地球環境の現状を考えるーシマフクロウの森でー

早稲田環境塾塾長 原 剛

ウは「絶滅危惧種1A類」に指定された。

知床半島に近い根釧原野を貫流する西別川の流域で、土地の人たちが「シマフクロウ百年の森づくり」を始めて32年になる。

シマフクロウとの出会い

アイヌ語で「コタン・コロ・カムイ（村の守り神）」と呼ばれ、先住民・アイヌに崇められてきたシマフクロウ。その神の鳥が今、兵糧攻めに遭い、絶滅の淵にいる。河川改修や砂防ダムの建設で餌となる小魚を奪われただけではない。牧草地の造成で、うろのある胸高直径1メートル前後の巨木も伐採され、繁殖すら容易ならぬ状況に追い込まれてしまった。

摩周湖の伏流水として知られる西別川の支流の一つ、標茶町シユワンベツ川源流部に養魚場を構える大橋勝彦さんの池に、一組のつがいが見られたのは32年前の夏のこと。ニジマスは夜毎狙っていた。

「神様を何とかしなければ……」。大橋さんは仲間たちを養魚場のほとりにある管理棟での酒宴に招き、彼ら

の眼前でシマフクロウのつがいが池のほとりに降り立った。魚を狙い、やがて満腹になったのであるう、姿を消した。「この鳥を守る会を作ってはどうか」。大橋さんが切り出した。「それはいい」。話は一気に進んだ。「神様を救わねば……」彼らはそう直観した。

アイヌの神へ、広がる共感

1994年4月、48人が加わり「虹別コロカムイの会」の設立を宣言した。

——アイヌ民族は、シマフクロウを「国または村を持つ神」(kotan koro kanni, コタン・コロ・カムイ)として大変尊敬してきた。その立派な風格とものごとをすべて見通してしまうような眼差しは、まさに神としてふさわしいものを持っている。

私たちはシマフクロウの置かれている現状を憂慮し、少しでもシマフクロウが生存しやすい環境づくりのために、あらゆる努力を払う所存である。「虹別コロカムイの会」設立の趣旨)

牛乳と鮭の日本一の大生産地、根釧台地とオホーツク海をつなぐ西別川の河畔に暮らす人々が加わり、共感の輪が広がっていく。「人々」とは、作家開高健が「ロビンソンの末裔」で描いた、不毛の原野で苦闘の歴史をたどった開拓民の末裔たちであ

る。

標茶町立虹別中学校は、毎年5月に行われる植樹祭での苗木植樹作業を正規の授業と定めている。漁民、酪農家、一般町民、遠来の支援者など三百人以上が、西別川沿いに拓いた植林地で、鋭い刃がついた島田クワを振って笹の根を切り拓き、森林組合員の手ほどきを受けて三千本の広葉樹の苗木を植え付ける。この32年間で西別川の両岸幅50メートルから100メートルに約十万本の広葉樹の苗木を植え、手入れをする一方、残っている巨木に巣箱を架け続けている。全道で約200羽しか生息していないフクロウの、実に36羽がコロカミイの会員たちの手で巣立った。

酪農家も川沿いの牧草地を植樹場所に提供、植樹したミズナラやハンノキが、今では3メートルを超す高さに生い茂っている。

「川の縁に林の緩衝帯が出来ると、大雨の時に土砂が川に流されなくなり、安心して酪農が出来る」(酪農家)「放流した鮭の稚魚が森からの養分で育ち、4年後には西別川に戻ってくる」(漁業者)

そして生きた魚がシマフクロウの主食となる。自然界がつくり出す栄養分は森と川と海と大地をめぐり、牛乳や鮭となって私たちの生命を支えているのだ。

このような自然の恵みは「生態系

による経済効果」(生態系サービス)として環境経済学の主題になっている。

カード会社セディナと緑の地球防衛基金も「虹別コロカミイの会」の河畔林造りを支援した。セディナ社発行の「地球にやさしいカード」の利用金額の0.5%相当額の一部が、緑の地球防衛基金を通じて「虹別コロカミイの会」にも寄付された。河畔林が生み出す根釧原野の自然の恵み(生態系サービス)のコストを牛乳や鮭を消費する都市住民が分担する構図である。持続可能な食料の生産を支える原点に他ならない。

虹別コロカミイの会の会員たちの感動が、この土地を超えて人々に共感の輪を拡げているのは何故か。

雁が一例だが、先人たちが野鳥に想いを託してきたからだ。「想い」とは感性の文化に根差す共感である。野鳥とは即ち、日本文化の基層にある感性表現(もののあわれもその一形態である)が仮託された象徴なのだ。「雁」への広い関心が好例である。

アイヌモシリ(大地)へ移住した、開拓者たちの末裔である「虹別コロカミイ会」に集う人たちもアイヌ同様、シマフクロウに土着の神を視ている(会の設立趣旨)。シマフクロウを神とあがめたアイヌに共有された感性は、イオマンテ(神送り)の祭を生み、支えた。自然観は、文化

の培養基に他ならない。仏教の教典報恩経には、雁の王が仏陀その人として登場する。従う500羽の群は悟りを拓いた修行僧の集団(羅漢)とみなされる。宮本武蔵が描いた「葦雁図」は剣豪の気迫を漂わせる。

熊送りの儀式イオマンテと並んでシマフクロウのイオマンテは、神の鳥を感謝をこめて天上の神へ送り返す儀式であり、昭和18年まで虹別のアイヌ集落で続けられた。

虹別コロカミイの会の「シマフクロウの百年の森づくり」は、シマフクロウが生息する原生林を破壊し尽くした近代の日本人による、シマフクロウが棲む西別川への原風景の復活作業を意味する。

実現した森づくりの夢

——標茶町立虹別小学校の全校生徒が、ミズナラのどんぐりを採取して、苗木を育て始めました。中学生になったら、同じように大きくなった苗木を自分たちの手で植林する、とのこと。嬉しい限りです。

町立虹別中学校は2025年から全校をあげてシマフクロウの森づくり植樹祭に、授業の一環として加わっています。新たに始まった小学生たちの苗木づくりで、地域の子供たちの自発的な行動の一層の広がりが、大人たちにも実感されてきました。



植樹祭の一風景②



植樹祭の一風景①

植樹祭で島田クワを振るい、苗木を整える若者のグループが目を見せます。虹別中学校を卒業、大学に進学した学生が仲間を誘ってきてくれたのです。私は感動しています。私たちが初めから考えていた夢が、皆の眼の前で実現したのです。未来への新たな一歩の始まりです。(虹別コロカミイの会 館定宣会長)

原 剛(はら たけし)

早稲田環境塾塾長、早稲田大学名誉教授、毎日新聞客員編集委員、農業経済学博士、緑の地球防衛基金審議委員会委員。1993年国連グローバル500環境報道賞受賞

トピックス

2024年の世界の森林減少は、大規模火災の影響により過去最悪を記録

世界資源研究所（WRI）が運営する「森林監視プラットフォーム」によると、2024年は、大規模火災の増加などによって世界の森林減少が急激に進み、失われた森林面積は過去最高を記録しました。

森林は、人々の生活や水供給、生物多様性、地球温暖化を抑制する多量の二酸化炭素の貯蔵など、人類および地球規模の環境保全に、極めて重要な役割を果たしています。そうした森林の減少が過去最悪を記録することは、極めて憂慮される事態です。

公開されている本件データの一部を紹介します。

1. 森林減少の面積、要因等

○熱帯原生林の焼失面積だけでも、670万ヘクタールに達しています。これは2023年のほぼ2倍に相当し、毎分サッカー場18面分の面積が焼失していることになりました。

○熱帯原生林の喪失の主な原因は、これまで農業の拡大でしたが、今回初めて火災が農業を抜いてトップに立ったということです。

○熱帯原生林の減少の約50%を火災が占めました。森林減少における火災の割合は、これまで平均20%程度でしたので劇的な変化です。

○一方、火災以外の、例えば農業の拡大、都市化、違法伐採などを原因とする熱帯原生林の減少も14%増加し、2016年以来、最大の増加となりました。

○熱帯林の火災は主に人為的なものであり、農地や新たな農業用地の準備のために火災が発生することがよくあります。

2024年は、気候変動とエルニーニョ現象によって、記録上最も暑い年となりましたが、この極端な気象条件により、これらの火災がより激しく、制御が困難だったとのこと。

2. 森林減少の国別、地域別状況

○森林焼失面積が最も大きかったのはブラジル、次いでボリビアでした。

インドネシアやマレーシアなど東南アジアで減少率が低下した国があるものの、世界全体では憂慮すべき傾向にあるということです。

○熱帯林面積が世界最大であるブラジルの森林減少は、2024年の世界の森林減少の42%を占めました。

ブラジルは、70年振りの大規模かつ深刻な干ばつに見舞われ、高温と相まって、森林火災が2023年と比較して6倍以上に増加しました。

その他の原因による原生林の減少も13%増加しました。これは主に大豆などの大規模農場を作るために森林が切り倒されたものです。

○ブラジル北部のアマゾンにおいても、2016年以来最大の減少を記録しました。

緑の地球防衛基金が長年支援している「NPO法人熱帯森林保護団体」のアマゾンでの消防事業においても大きな火災が生じました。2024年8月に密猟者の火の不始末により火災が発生し、瞬く間に広がった火は、10月の雨季が来るまで燃え続けました。消防団員を100名に増やし、必死の消火活動が続けましたが、けが人が続出し1名が犠牲になり、支援対象地域の27%の16万8,579ヘクタール（東京都全域の約80%の面積）が消失し、インディオたちの生活が根底から崩されました。

○森林減少は、熱帯地方だけにとどまらず、カナダやロシアなどの北方地域でも、大規模火災が発生し

ています。

2021年に140か国以上の首脳が、グラスゴー首脳宣言に署名し、2030年までに森林喪失を食い止める回復することを、約束しました。しかし、原生林面積が大きい上位20か国のうち17か国では、協定締結時よりも現在の原生林の喪失面積が拡大しています。

地球環境保全のため、今こそ世界の森林の回復に向けて人類は力を結集する必要があります。



(写真2) 空からの消火活動



(写真1) アマゾンの大規模火災。火災の多くが農牧地拡大のための野焼きが原因と見られています。

(お知らせ)「地球にやさしいカード」助成事業
第 17 回 研究・活動報告会の開催

2025 年 11 月 14 日（金）に標記の報告会を開催します。
様々な環境問題に取り組む助成団体のうち、本年は下記
記載 2 団体から日頃の活動状況が報告されます。
入場無料です。多くの皆様に日頃の活動状況をお聴きい
ただければと願っています。こぞってご出席をお願いします。

1. 主 催 公益財団法人 緑の地球防衛基金
2. 後 援 三井住友カード株式会社
3. 日 時 2025 年 11 月 14 日（金）14：00～16：00
4. 場 所 馬事畜産会館 2 階会議室
〒104-0033 東京都中央区新川 2-6-16
地下鉄東西線・日比谷線
「茅場町駅」徒歩 5 分
JR 京葉線・地下鉄日比谷線
「八丁堀駅」徒歩 5 分
都営バス 東京駅八重洲口発深川車庫前
または東京ビッグサイト行きバス停「新川」
下車徒歩 2 分

5. 研究・活動報告
- (1)「里山を保全し次の世代に受け継ぐ」
川原井自然学校
- (2)「アフリカ象を守る」
トラ・ゾウ保護基金

参加ご希望の方は、いずれかの方法で当基金にご連絡願います。
電話 (03-3297-5505)、FAX (03-3297-5507)、
Email(defense@green.email.ne.jp)。締切りは 11 月 11 日。

上昇を続ける地球の平均気温

今年の日本の夏の平均気温は、平
年と比べて2・36度高く、統計開
始以来最も高くなったと、9月1日
に気象庁が発表しました。

世界に目を向けると、2024年
の世界の平均気温は15・1度で、
1850年以降最も高くなったと、
2025年1月にEUの気候情報
機関が公表しています。

上昇を続ける地球の平均気温の抑
制に一定の役割を果たしている森林
を、保護・育成する必要性が一層高
まっています。

たくさんの使用済み切手など
ありがとうございました

使用済み切手等売上表 (6月16日～9月15日)	
未使用テレホンカード	0 円
未使用／使用済み切手	103,445 円
未使用／書き損じハガキ	17,600 円
外国コイン&紙幣	0 円
合 計	121,045 円

使用済み切手等協力者
(6月16日～9月15日敬称略)

一柳清美、高木典子、高山素子、林
央、宮本健吾、山口彌生、匿名

同法人・団体協力者
(6月16日～9月15日敬称略)

(社)愛知県社会福祉協議会、(株)アップ
ワード、(株)インポートロッサ、宇佐
ながすライオンズクラブ、大西金属
(株)、(有)岡建、カクケイ(株)、鹿島建設(株)、
柏市国際交流協会、(社)春日井市社会
福祉協議会、(株)協和地質、(株)KYO
SO、近畿容器(株)、国際ソロプチミ

事務局からのお願い

全国の皆様、いつも使用済
み切手などをお送り下さりあ
りがとうございます。
当基金では、皆様からお送
りいただいた「未使用／使用
済み切手」「未使用／書き損じ
ハガキ」「外国コイン&紙幣」
の売上金を植林活動等に役立
てています。引き続き、ご協
力の程お願いいたします。

寄付協力者
(6月16日～9月15日敬称略)

荒井俊行、(株)ECC、黒澤一雅、佐
藤将治、ジャパン・カインドネス協
会、幅田博樹、麓孝文、三井住友カ
ード(株)、森口修、吉田菊次郎

新入法人会員
(6月16日～9月15日敬称略)

マブチモーター(株)

スト京都、三洋テクノマリン(株)、静
甲(株)、積水ハウスシャーメゾンPM
中部(株)、大成有楽不動産(株)、(株)ダ
キン、タチバナ工業(株)、東急建設(株)
九州支店、東京管理サービス(株)、豊
田安全衛生マネジメント(株)、(社)名古
屋市社会福祉協議会、西日本シテイ
銀行職員組合、ニッパツ・メック
(株)、(公社)日本馬術連盟、ハート(株)、
パナソニックホームズ労働組合、日
立建機日本労働組合、ホープ歯科ク
リニック、三越伊勢丹グループ労働
組合、(株)ミライト・ワン群馬支店、
和興フィルタテクノロジー(株)